

第 14 期

事 業 報 告 書
決 算 報 告 書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 復 康 会

令和7年度 事業報告書

も く じ

I. 今期の概況	1
II. 事業活動	3
III. 理事会・評議員会の開催	4
IV. 活動報告	
[1] 軽費診療	6
[2] 精神保健相談・健康相談活動	6
[3] 研究発表	7
V. 医療活動	
[沼津中央病院グループ]	11
[鷹岡病院グループ]	17
[沼津リハビリテーション病院グループ]	20
VI. 福祉活動	
[本部・社会復帰事業部]	24
VII. 地域貢献活動	
[1] 講演開催状況	28
[2] 嘱託医の受託	30
[3] 実習病院の受託	31
[4] 大学・看護学校等への講師派遣	32
[5] 関連諸団体の活動	33
[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力	34
[7] 受託事業	37
VIII. 職員配置状況	38

I. 今期の概況

復康会は、第5次中長期経営計画（令和5（2023）年4月～令和10（2028）年3月）を策定し、法人理念である「愛・信頼・貢献」を基軸に、基本方針、目標、重点目標を定め、具体的な内容を示す事業計画にそれらが反映されるスキームを構築している。令和7年度を終え、計画は中間点を折り返した。

第5次中長期経営計画	
基本理念	愛・信頼・貢献
基本方針	1. 人間愛に基づき、人権および当事者視点に配慮した良質なサービスを提供します。 2. 働き甲斐のある職場をつくり、人材育成に努めます。 3. 法人内外の連携を深め、地域社会の医療・福祉に貢献します。 4. 全組織的な取り組みにより、健全な経営を実現します
目 標	公益財団法人の責務として、専門的なサービスの持続的な提供によって地域に貢献する。
重点目標	1. 良質な医療・福祉サービスの展開 1) 地域に責任を持った包括的で継続的な医療・福祉サービスの提供 2) 公平で敏感な即応型医療の実践 3) 適切で整合な仕事の探求 4) 人権意識と当事者中心理念の浸透 2. マネジメント体制の強化 1) 持続的な人材の確保・活用・育成とための体制構築 2) 合理的な経営計画と法人運営による組織の健全化 3. 全組織的な経営参画 1) 個々の職員による経営意識の向上 2) 法人内各領域の有機協働による機能的・効率的な組織支援

人権意識の向上においては、改正精神保健福祉法の施行から月日が経ち、業務の定着化が進んだ。業界全体の意識変化に先んじて、高い水準でこれを実践していることが実感される。当事者視点については、法人として当事者であるピアスタッフの雇用を進め、学会などのイベントを通じ、各方面からの関心を高めている。

令和7年度には、特に沼津中央病院において医師の退職が相次いだ。法人全体で人材確保が深刻化しており、それによる業務縮小や予定外のダウンサイジングプランの必要性も生じ、事業所の閉鎖などを余儀なくされたが、人材難は人口構造の変化に伴う業界全体の傾向であり、働き甲斐のある職場や人材育成に関しては保たれていると考えられる。当法人として、診療報酬メニューを活用し、令和6年度と令和7年度にそれぞれ賃上げを実施したほか、同年度末には政府補助金により追加的支給を実現した。実際には補助額を超える支給が発生するため、法人にとっての経費負担は増加するが、人材重視の観点からこれを実現でき、しかも年度収支を黒字達成できたことは法人の健全性を裏付けるものとして、経営に関わる法人全職員と先人の努力に感謝したい。計画に掲げた、全組織的な取り組みによる健全な経営実現が目に見える形となってきた可能性がある。なお、この賃上げは令和8年度の診療報酬におけるベースアップ評価料により同水準で今後も移行し、本来の本給部分のベアを検討していく予定である。

沼津中央病院の電子カルテシステム更新に引き続き、令和7年度には鷹岡病院でも新規導入した。技術革新が目まぐるしく変化する中、最新企画であるクラウドネイティブのシステムをいち早く導入できたほか、時期的に社会情勢の不安定に伴う半導体入手困難、物価高騰の煽りを大幅に回避できたことから、結果的な側面があるものの、判断は適切であったと考える。

重点目標(第5次中長期経営計画における重点課題を踏襲)

1. 良質な医療・福祉サービスの展開
 - 1) 地域に責任を持った包括的で継続的な医療・福祉サービスの提供
 - 2) 公平で敏感な即応型医療の実践
 - 3) 適切で整合な仕事の探求
 - 4) 人権意識と当事者中心理念の浸透
2. マネジメント体制の強化
 - 1) 持続的な人材の確保・活用・育成とそのための体制構築
 - 2) 合理的な経営計画と法人運営による組織の健全化
3. 全組織的な経営参画
 - 1) 個々の職員による経営意識の向上
 - 2) 法人内各領域の有機的協働による機能的・効率的な組織支援

II. 事業活動

1. 〔公益目的事業〕

① 地域に必要な専門分野の医療サービスを提供する事業

・沼津中央病院

県の精神科救急医療体制整備事業における常時対応型施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に運用し、その活動は十分であった。

・鷹岡病院

県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に活動した。

認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じて、情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を本年度も受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。

・沼津リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。また、療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しつつ、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。

② 障害福祉サービス事業

・社会復帰施設

障害種別を問わず、各事業所市町を中心に障害者の地域での暮らしに関する相談、住居、就労等に関する支援を広域的に実施。また、地域行事への参加や当事者活動への協力、ボランティアの受け入れ等、普及啓発活動を通して、地域に開かれた障害福祉サービス事業所運営を行った。

③ 介護サービス事業

・看護小規模多機能型居宅介護事業所汐かぜでは、開設1年目として積極的な告知活動を行い、更に併設する訪問看護ステーションうしぶせとの連携により、利用者数が徐々に増加している。運営面は、介護職員を対象として研修・勉強会を実施し、利用者へのケアの質が向上し、事業として軌道に乗り始めた。

・訪問看護ステーションうしぶせでは、在宅支援サービス資源が少ない沼津市戸田地区までサービス提供範囲を拡大した。これまで選択肢が施設に限られていた地域住民に対し、在宅で生活を続けられる支援に努めた。

④ 医師・看護師その他医療スタッフ育成のための学生教育実習及び臨床研修への協力事業

・沼津中央病院

精神科専門医制度における専門研修プログラム機関研修施設について、近隣協力機関の協力のもと、募集数、登録数ともに確保できており順調に運営している。実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師などについて例年通り行うことができた。

・鷹岡病院

研修医（初期、精神科専攻医）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師、臨床心理士の実習生の受入れを行った。

・沼津リハビリテーション病院

大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成に協力した。

⑤ 専門知識や技術向上のための研究協力事業

・沼津中央病院

国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請に対して、十分に応需した。

・鷹岡病院

摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。

・沼津リハビリテーション病院

新型コロナワクチン接種に協力し、高齢者施設に出向いての接種を行った。一次救急輪番への協力、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）感染対策連絡会議の参加、研究への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において「オーラルフレイル」に関する研修会を開催し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

⑥ 無料相談、助言事業

・院内無料精神保健相談

沼津中央病院、鷹岡病院、富士メンタルクリニックの3拠点におけるIV活動報告[2]-②の実績参照。

・助言事業

静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。

⑦ 保健福祉普及のための啓発事業

・外部機関からの要請に対し、例年通り多種多様な委員を担うと共に、地域自立支援協議会の運営に協力した。

・社会復帰事業部では、沼津市、伊豆の国市からの委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。

2. [収益事業]

・特別の療養環境の提供に関する事業

より快適な療養環境を希望する利用者の要望に応え、適切な料金にて個室等を提供した。

・日常の支援に関する事業

入院患者の日常生活向上のため、生活に必要な衣類等の洗濯や生活物品等の調達を患者に代わって行う、あるいは委託可能な業者を紹介する等の事業を行った。

・不動産賃貸業

静浦ホテル跡の土地及びヒルズ岡の宮、セジュール新大橋の賃貸、駐車場運営等を行っている。

・売店事業

外部委託していた3病院の売店事業は委託会社の解散に伴い、令和7年4月より当法人にて運営を行っている。

3. [その他の事業]

・福利厚生事業

ウィスタリアン・ライフクラブ箱根への入会を継続し、利用者は1名だった。

4. [法人の運営体制の充実を図るための取組]

倫理的な行動規範の整備として令和7年度は規程等の整備に着手し、「役職員等職務権限規程」等を見直し、規程・規則の決議分掌表を令和8年度中に改定する予定である。

Ⅲ. 理事会・評議員会の開催

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第58回 理事会	R7.5.29	理事 6名 監事 2名	1. 令和6年度事業報告(案)について 2. 令和6年度決算報告(案)について 3. 令和7年度の賞与支給について 4. 給与規程の改定について 5. ワークショップまごころ」と「サポートセンターひまり」の移転について 6. 定時評議員会の招集(案)について 7. 理事及び監事並びに評議員の報酬及び費用に関する規程の改定について 報告事項 理事長・常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第 22 回 評議員会	R7. 6. 26	評議員 6 名 監事 2 名	1. 令和 6 年度事業報告(案)について 2. 令和 6 年度決算報告(案)について 3. 理事及び監事並びに評議員の報酬及び費用に関する 規程の改定について
第 59 回 理事会	R7. 12. 18	理事 6 名 監事 1 名	1. 令和 7 年度 第 1 次補正予算 (案) について 2. あたみ中央クリニックの閉院について 3. 「サポートセンターほっと」と「グループホームふじ み」の閉鎖について 4. 就業規則の改定について 5. 給与規程の改定について 6. 特別職（鷹岡病院長）の交代について 7. 特別職（沼津リハビリテーション病院長）の定年再延 長について 報告事項 ① 令和 7 年 9 月期の業績について ② 理事長、常務理事及び業務執行理事の職務執行状況報 告
第 60 回 理事会	R8. 3. 26	理事 6 名 監事 2 名	1. 令和 7 年度徴収不能損失について 2. 令和 8 年度事業計画 (案) について 3. 令和 8 年度予算 (案) について 4. 役員賠償責任保険契約について 5. 特別職退職慰労金の支給について 6. 資産運用ガイドラインの見直しについて 報告事項 ① 令和 7 年度 期末業績予想について ② 資産運用報告について ③ 令和 7 年度 公益通報報告について

以上

Ⅳ. 活動報告

〔１〕 軽費診療

医療別		生保患者		減免	減免及び 生保患者	取 扱 延人数	割合%
		単独	併用				
入院	延人数	26,928	99	0	27,027	170,327	
外来	延人数	1,049	13,461	0	14,510	117,054	
計		27,977	13,560	0	41,537	287,381	14.4%

〔２〕 精神保健相談・健康相談活動

① 院外精神保健相談

病 院 別	回 数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
沼 津 中 央 病 院	年 1 回	精神保健福祉総合相談	齊 藤 直 子	東部保健所
	年 1 回	精神保健福祉総合相談	上 田 豪	東部保健所
	年 1 回	精神保健福祉総合相談	井 本 亘 重	熱海保健所
	年 1 回	精神保健福祉総合相談	上 田 豪	熱海保健所
鷹 岡 病 院	年 12 回	富士市職員メンタルヘルス相談	谷 口 弘 樹	富士市役所
	年 2 回	精神保健福祉総合相談	高 木 啓	静岡県富士健康福祉センター
	年 2 回	静岡県職員健康相談	〃	静岡県経営管理部
	年 2 回	保護者カウンセリング事業	〃	富士児童相談所
	随 時	教職員面接指導	〃	富士市教育委員会
	随 時	健康相談・面接指導	〃	富士地域産業保健センター
	年 6 回	ストレス相談	久 保 伸 年	富士市保健部健康対策課
	年 6 回	〃	鈴 木 順 一	〃
	年 12 回	県立工科短期大学等精神保健福祉相談	山 口 雅 弘	静岡県経済産業部
	随 時	犯罪被害者面接相談	久 保 伸 年	静岡被害者支援センター
	年 2 回	ひきこもり家族個別相談	〃	KHJ 静岡県「いっぷく会」

② 院内無料精神保健相談・健康相談

(件)

病院別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
沼 津 中 央 病 院		65	68	54	71	56	71	52	42	29	19	23	121	671
鷹 岡 病 院		46	49	32	21	28	24	26	35	28	23	14	45	371
富 士 メンタルクリニック		2	4	2	2	3	1	2	2	0	2	0	3	23

〔3〕 研究発表

① 学会・シンポジウム・研修会等への研究発表

沼津中央病院

1. 第 121 回日本精神神経学会学術総会
シンポジウム 95 「精神科病院を受療した自殺企図者の自殺再企図防止方略開発のための他施設共同臨床試験」 2025/6/20 杉山 直也(共同演者)
2. 第 33 回日本精神科救急学会
理事長講演「精神科救急と当事者認識」 2025/10/16 杉山 直也
3. 第 55 回日本医事法学会研究大会
シンポジウム医療と家族—医療同意のあり方「精神疾患を有する患者への医療同意について」
2025/11/30 杉山 直也
4. 第 28 回日本臨床救急医学会総会・学術総会
PD-11 小児病院前救護に関わる教育コースの現状を課題
「精神症状対応の教育コースは小児病院前救護にも活用できるのか」 2025/6/20 日野 耕介
5. 日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum
「持続性注射の安全な導入を目指して」 2025/7/12～31 千田 真愛
6. 日本精神科看護協会静岡県支部 研究発表会
「衝突からはじまる合意形成のプロセス」 2025/10/25 竹内 慶
7. 地域に根ざす心理臨床-力動的視点の可能性 2025/10/5 植田 裕吾
8. 公益財団法人復康会法人研究発表「精神科病院における患者からの暴言や暴力が看護職員の心理的ストレス反応と職務満足に与える影響の実態調査」 2026/2/11 植田 裕吾
9. Yoshitaka Kawashima, Kousuke Hino, Keisuke Inoue, Michiko Takai, Shizuka Kawamoto, Yasushi Otaka, Manami Kodaka, Naohiro Yonemoto, Mitsuhiko Yamada : Effects of a one-day online Interprofessional Education (IPE) program for students on the topic of suicide prevention. The International Association for Suicide Prevention 33rd World Congress, Austria (2025/6)
10. 第 28 回日本臨床救急医学会総会 横浜 2025/6
 - ①秋田 PEEC (Psychiatric Evaluation in Emergency Care) コースのこれまでの振り返る
佐藤 大祐, 中永 士師明, 北村 俊晴, 日野 耕介
 - ②パネルディスカッション 7 小児病院前救護に関わる教育コースの現状と課題
精神症状対応の教育コースは小児病院前救護にも活用できるのか 日野 耕介, 濱田 拓也

鷹岡病院

1. 第 60 回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会
「“質の高い退院”の実現に向けた取り組み」 2025/8/22～23 白川 怜小

1. 静岡県理学療法士会 神経系専門部会症例検討・発表
「右視床出血により左重度片麻痺・感覚障害により自宅退院に向けて難渋した症例」
2025/5/15 浅沼 那月
2. 第 28 回静岡県理学療法学会 講演
「脳画像から機能を予測する」 2025/6/22 山内 信吾
3. 協和キリン株式会社 講演
「認知神経リハビリテーションに基づくパーキンソン病のリハビリテーション」
2025/9/24 西島 勇
4. 第 65 回静岡リハビリテーション懇話会 発表
「トイレでの排泄に向けて多職種で取り組んだ視神経脊髄炎の一例」 2025/9/27 佐藤 美穂
5. 第 65 回静岡リハビリテーション懇話会 発表
「難治性てんかん・拒食などの精神行動障害・家族間におけるケア方針の混乱動揺などにより、
退院支援に困難を来した一例」 2025/9/27 三浦 真弓
6. 田方地区理学療法士勉強会 講師
「脳画像から機能を予測する」 2025/10/6 山内 信吾
7. 静岡県理学療法士会 神経系専門部会症例検討・発表
「右アテローム脳梗塞により左片麻痺を呈した症例」 2025/11/13 高木 嘉希

② 研究論文・総説・著書発表

【論文発表】

1. Ryutaro Ishibashi, Naohiro Yonemoto, Yoshinori Cho, Naoya Sugiyama, Yoshiki Kishi, Kiyoshi Fujita, Masayuki Morikawa, Masaru Tateno, Yoko Kawahara, Kotaro Otsuka, Tomoaki Sanol, Kosuke Komata and Chiaki Kawanishi: A multicenter, single-arm clinical trial of an assertive case management intervention for preventing suicide reattempts at psychiatric hospitals in Japan: ACTION-JP study. BMC Psychiatry (2025) 25:1135
2. Miyazaki H, Hino K, Ito T, Taniguchi H, Suda A, Abe T, Takeuchi I, Asami T : Elevated neutrophil-lymphocyte ratio as a biomarker for suicide attempts in emergency department physical trauma patients: a retrospective observational study. J Psychiatr Res. 2025 Nov; 191:30-38.

【総説】

1. 精神科救急・急性期ケアの技術論に立ち返る．特別講演．精神科救急 28, 3-10, 2025 杉山 直也
2. 精神科救急医療における自殺未遂者ケアとその課題
シンポジウム「自殺未遂者医療をめぐるトピックス」．精神科救急 28, 128-132, 2025 杉山 直也
3. 精神科医療における TIC—行動制限最小化の観点から—．臨床心理学 25 (4), 439-443, 2025
杉山 直也, 大岡 由佳, 三宅 美智, 奈良 麻結, 石井 美緒
4. 急性期病棟
特集「こころを支えるさまざまな器—精神科の治療環境を考える（仮題）—」
精神科治療学, 40 (10), 1047-1052, 2025 杉山 直也
5. 精神科医療機関における行動制限最小化の普及～行動制限最小化プラットフォームの紹介～
心と社会, 201, 66-71, 2025 杉山 直也

6. 行動制限最小化プラットフォームの活用 厚生労働科学研究より．行動制限最小化活動．
精神科看護，52，66-69，2025 三宅 美智，奈良 麻結，吉川 隆博，杉山 直也
7. 精神科救急と専門医．
より専門性の高い臨床スキル知識を有するサブスペシャリティ
特集「精神科のサブスペシャリティ：いつどのように取得し、働き方にも活かすか」
臨床精神医学 54 (12)，1435-1451，2025 平田 豊明，川畑 俊貴，杉山 直也
8. 【ガイドライン 2022 年版薬物療法の検証：次の改訂に向けた第 1 歩として】
精神科救急症例に対する薬物療法 ガイドラインと実際の症例の比較．
精神科救急 (1345-7837) 28 巻 Page57-62 (2025/09) 日野 耕介，杉山 直也

【報告書】

1. 行動制限最小化のための病院間ピアレビュー手順の開発．
精神科医療機関における行動制限最小化の普及に資する研究 (23GC1014) (代表研究者：杉山直也)，
令和 6 年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業) 分担研究報告書
杉山 直也，吉川 隆博，三宅 美智，新垣 元，石井 美緒，大岡 由佳，岡田 久実子，桐原 尚之，
草地 仁史，奈良 麻結，藤井 千代，吉浜 文洋
2. 精神科医療機関における行動制限最小化の普及に資する研究 (23GC1014) (研究代表者：杉山直也)
令和 6 年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業) 総括研究報告書
杉山 直也，吉川 隆博，三宅 美智，新垣 元，石井 美緒，大岡 由佳，岡田 久実子，桐原 尚之，
草地 仁史，奈良 麻結，藤井 千代，吉浜 文洋
3. 精神科医療機関における行動制限最小化の普及に資する研究 (23GC1014) (研究代表者：杉山直也)
令和 6 年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業) 総合研究報告書
杉山 直也，吉川 隆博，三宅 美智，新垣 元，石井 美緒，大岡 由佳，岡田 久実子，桐原 尚之，
草地 仁史，奈良 麻結，藤井 千代，吉浜 文洋

【著書】

1. 病院管理の視点から．第 8 章 1 病院全体の体制づくり．最新版 病院内における自殺の予防&対策
のすすめ方．メディカ出版，164-166，2025 杉山 直也
2. 第 3 章 2 精神疾患治療における自殺予防．最新版 病院内における自殺の予防&対策のすすめ方．
メディカ出版，68-71，2025 杉山 直也

【シンポジウム】

1. 第 43 回日本社会精神医学会 東京
精神科医療機関における行動制限最小化の普及
2025/3/14 杉山 直也，奈良 麻結，三宅 美智，吉川 隆博，藤井 千代
2. 第 121 回日本精神神経学会学術総会 神戸
精神科病院における自殺企図者の自殺再企図防止方略開発のための多施設共同臨床試験・
ACTION-JP 研究の背景
シンポジウム 95「精神科病院を受療した自殺企図者の自殺再企図防止方略開発のための多施設共同
臨床試験 (ACTION-JP 研究)」
2025/6/20 河西 千秋，石橋 竜太郎，大塚 耕太郎，杉山 直也，張 賢徳
3. 第 121 回日本精神神経学会学術総会 神戸
ACTION-JP 研究の概要
シンポジウム 95「精神科病院を受療した自殺企図者の自殺再企図防止方略開発のための多施設共同
臨床試験 (ACTION-JP 研究)」

2025/6/20 石橋 竜太朗, 米本 直裕, 張 賢徳, 杉山 直也, 館農 勝, 藤田 潔, 森川 将行,
来住 由樹, 川原 一洋, 河西 千秋

4. 第 55 回日本医事法学会 名古屋

精神疾患を有する患者への医療行為同意について

シンポジウム「医療と家族-医療行為同意のあり方」2025/11/30 杉山 直也

【その他】

1. 日社精医誌 座談会

「精神保健福祉法改正と精神障害者の権利擁護－医療保護入院の観点を中心に－」146-159, 2025
杉山 直也, 二宮 貴至, 堀合 研二郎, 藤井 千代, 杉浦 寛奈

【特別講演】

1. 第 33 回 日本精神科救急学会学術総会 高崎

精神科救急と当事者性 2025/10/16 杉山 直也

V. 医療活動

【沼津中央病院グループ】

1. 概要

令和7年度は、法人全体として定めた第5次中長期経営計画（令和5（2023）年4月～令和10（2028）年3月）の3年目にあたり、沼津中央病院で新たに定めた以下の運営方針の下3年が経過した。

今年度は、9月末に2名、更に令和8年3月に2名の合計4名の精神保健指定医が退職となった。これにより、一部の事業所閉鎖を余儀なくされ、院内の精神保健指定医の業務が過重となるなど、その対応に奔走した1年だったと言える。この緊急的事態を打開すべく各方面へ働きかけをした結果、令和8年度当初から、他の医療機関からの応援体制を構築することができた。

かねてより当院で進めてきた当事者性の強化については、法が求める人権意識の向上によくフィットし、継続的に地域共生社会の実現に向けた活動が実践できたものと考えている。医療等サービスについては人材困難により稼働の下方修正を行ったものの、例年通り安全で質の高い提供がなされ、各職員は自己研鑽、他者信頼を心掛け、社会貢献は十分に果たすことができた。法人として打ち出している人的資本経営や全組織的な経営参画の方針は、物価高騰や法人による賃上げの影響もあり、その意識は向上し、取り組みとしては進展があるものの、医療機関全般が抱えるように、実際の成果としては課題を有す。

令和8年度は、6月からの診療報酬改定を踏まえた医業の更なる充実の他、精神保健指定医の確保や建物の老朽化対策など、早急な課題が山積しているが、全職員が一丸となって取り組んでいきたい。

運営方針

地域共生社会の実現に向け、信頼され、選ばれる医療機関として、あらゆるニーズに専門的に応需できるよう、責任感・気概・志をもって当事者とともに使命に取り組むとともに、安全で質の高いサービスを提供し続けられるよう、自己を高め、他者を信頼し、社会に貢献していく。

【評価】

1. 概要を参照のこと

重点目標

1. 人的資本経営のための人材育成と対応力の強化

- 1) 好人材を引き寄せられるよう、良好な労働条件、豊富な業務経験機会、充実した指導体制が整い、雰囲気が高く、活気があり、魅力ある職場を実現する。
- 2) 働き方改革への対応を通じ、個々の働き手が健全で、かつ公私ともに自己実現できるような労働環境を実現する。
- 3) 困難な業務課題に対しても適切で、かつ個々人が低負担で無理なく対応できるよう組織力を強化し、常に専門的な向上心を高める意欲を喚起できるよう職場環境および体制を充実させる。
- 4) 職域に応じて、まずは各個人が標準化されたスキルを体得し、そこからさらにステップアップして専門性を高め、課題も克服できるよう、効果的な人材育成のための院内教育システムの構築を目指す。

【評価】

1) について、必要な努力を行っているが、社会の変化、国民意識の変化等により人員充足が深刻課題である。2) に関しては、特定のスタッフに負担が集中する課題がある。3) については現在体制不足がみられ、今後の充実を目指したい。4) では部署による違いがあるため、今後の課題である。

2. 医療サービス向上

- 1) 常に地域生活を見据え、包括的で切れ目がなく、統合的で公平なサービス体制を構築してケアを提供する。
- 2) 地域生活の中で生じる急性の危機状況に即応できるよう、良質で高水準の精神科救急医療サービスを継続的に提供する。
- 3) 当事者視点に立脚し、自立の促進によって権利と可能性を追求するケア理念に基づき、サービスを提供する。
- 4) 常に探求心をもってものごとに取り組み、より確かなエビデンスと合理性に基づいたサービスの提供を目指す。

【評価】

1) については従来通り包括的なサービス体制を構築した。2) 高水準の精神科救急医療サービスを提供した。3) ケア理念に基づきサービス提供した。4) 確かなエビデンスと合理性に基づいたサービスの提供を目指した。

3. 地域に責任を持つ

- 1) 静岡県東部の精神科医療における中核的医療機関としての自覚を保ち、気概と責任感を持って当事者サービスに従事する。
- 2) 地域社会の様々な分野と連携し、広い視野を持って地域貢献することを意識する。

【評価】

1) について、全職員が責任感をもって、地域に対する責任を果たした。2) について、十分な活動には至っておらず、今後徐々に進めてゆきたい。

4. 合理的かつ組織的な経営実践

- 1) 限られた人的資源を有効に活用し、組織がその目的や目標を無理なく達成できるよう、各従事者個々が数値目標を明確に意識し、ともに協力・準備して業務に従事する。
- 2) 少子高齢化等、時代の変化に伴う社会構造や制度・体制の変革に対応できるよう、効率的かつ合理的な病院経営を実現する。
- 3) 業務を支えている建造物、インフラストラクチャー等、病院資源に対する意識を向上させ、常に感謝の念を持つとともに、持続可能な開発目標に応じた設備運用を行う。

【評価】

1、2) に関し、人的資本経営の実践に向けた各個人の目標意識の向上は途上にある。3) について、職員としての意識向上は問題ないが、設備そのものは耐用年数のタイミング等により漸次対応が必要となっている。

● 事業所ごとの活動（評価は本文中に反映）

1. 沼津中央病院

(1) 基本情報

- ①管理者 杉山 直也
- ②病床数 270 床
- ③所在地 沼津市中瀬町 24 番 1 号 TEL055-931-4100(代)
- ④診療科 精神科・心療内科
- ⑤主な届け出受理等：精神科救急急性期医療入院料、精神科急性期医師配置加算 1、精神科療養病棟入院料、精神科病棟入院基本料 15:1、看護補助加算 1、感染対策向上加算 3、精神科ショートケア（大規模）、精神科デイケア（大規模）、精神科作業療法、薬剤管理指導料、精神科訪問看護、静岡県東部精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、災害拠点精神科病院、日本医療機能評価機構認定（機能種別版評価項目 3rdG:Ver3.0）

(2) 医療活動

(ア) 法人内外連携による地域包括ケアサービス

- ・精神科救急医療体制整備事業における常時対応施設と休日夜間電話相談の指定を継続的に受け、例年通り運用している。
- ・医療と保健福祉の連動による包括的地域サービスの展開および地域共生社会への貢献を果たした。
- ・退院支援・退院後支援（社会資源との連携や行政事業等による取り組み）は十分な実績をあげている。

- ・診療パフォーマンスについては、入院・外来共に目標値に至らなかった。
- ・入院外医療サービスの強化（包括的ケアマネジメント等）は、外来において、早期診療体制充実加算を届出し、外来診療の強化を継続している。

（イ）多様なニーズへの対応

- ・児童思春期精神科診療は、例年通り浜松医科大学、横浜市立大学と連携し、診療実績も維持している。
- ・圏域内総合診療については、例年通り、静岡医療センター、沼津市立病院と良好な連携（リエゾン）を維持している。
- ・治療プログラム（ぬま〜ぶ、リワークおよび就労支援プログラム、摂食障害、心理教育、急性期作業療法、協働意思決定（SDM: Shared Decision Making）、栄養指導）は、いずれも十分な活動を行った。
- ・クロザピンの組織的活用（適応判断のシステム化と計画的導入による安全性の確保）を計画的に実践し問題なく運用できている。
- ・修正型電気痙攣療法（m-ECT）は、昨年と同様に高稼働を維持し問題なく運用
- ・持効性注射剤（デポ剤）は十分に活用できている。
- ・適正な薬物療法とそのための組織的な取り組みについて、診療部を中心に取り組み、部分的には課題を残す。
- ・隔離・身体拘束最小化については、ゼロ化プロジェクトの成果を継続し高水準の最小化を継続しており、国内の注目を受けている。
- ・精神療法の充実は、課題が残る。
- ・災害派遣精神医療チーム（DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team）については、先遣隊を含め研修参加など活動を行っている。
- ・ピア活動の更なる推進を図るために、ピアの部署を医療相談課に確立し十分な活動を行えている。

（ウ）法令とエビデンスに基づく標準医療の推進

- ・精神保健福祉法の提出書類に遅延があり、運用面での課題が残る。
- ・標準的な治療の推進について、診療部を中心に組んだ。
- ・厚生労働科学研究への協力は例年通り協力を行った。
- ・職域ごとの研究推進については、部署により偏りが見られた。
- ・レジストリの活用について、外部研究発表までの成果は得られなかった。
- ・2種の治験を受け、行っている。

（エ）人材育成と強化、活用

- ・人権意識の向上を図るため、虐待防止委員会を設置し職員向け研修を行い取り組んでいる。
- ・クライシス対応スキル（ディエスカレーション、自殺ハイリスク等）については、全職員参加を目標に継続的に取り組んでいる。
- ・定例研修（リスク、感染、行動制限最小化、虐待防止等）は、年度計画を立案し、計画通りに開催できている。
- ・専門上位資格の取得として、1名が指定医を取得した。
- ・働き方改革への対応として、昨年導入した勤怠システムを活用している。
- ・精神科専門医制度 専門研修プログラム研修基幹施設を運用し、順調に育成できている。
- ・デイケアでボランティアを受け入れている。
- ・奨学金制度の活用は、特定行為研修など活用範囲が広がっている。

施設設備の整備計画

(オ) 既存建物設備の維持

- ・修繕計画に基づき維持に努めている。
- ・定期的な保守管理により、適切な設備更新（空調、電気、衛生等）ができています。
- ・電子カルテを、クラウドネイティブ型電子カルテに更新した。

(カ) 人・環境にやさしい空間の創造

- ・癒し・休憩のとれる環境づくりとして中庭の整備を計画していたが、定期的な草取りの実施しかできなかった。
- ・地球環境に配慮した設備管理（省エネルギーへの取り組み）として、病棟ロスナイ更新中であり、節電への取り組みも全職員で実施している。

地域貢献活動

(キ) 公的機関への協力

- ・国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請に対して、十分に応需した。
- ・大学、看護学校等への講師派遣を例年通り協力した。
- ・実習病院について、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師の受託をした。
- ・他分野（企業等）との連携と貢献については実施がなかった。

その他の活動

(ク) 情報管理の推進

- ・情報システムの適時更新に関しては、計画に則りクラウド型電子カルテの更新に着手している。
- ・情報セキュリティ対策として、クラウドネイティブ型電子カルテ更新に伴い万全なセキュリティ対策としてファイアウォールを設定し構築に着手している。
- ・医療 DX の取り組みとして、マイナ保険証の利用を勧めている。
- ・人工知能（AI）活用について、昨年からは進んでいない。

(ケ) 広報活動

- ・情報発信機能の強化については、病院ホームページの見直しを行った。

(コ) 感染症への対応

- ・新型コロナ、インフルエンザへの対応はできているが、新興感染症については随時情報を更新している。

(サ) 組織の健全化

- ・コンプライアンスの順守
- ・内部通報システムは、必要に応じて運用されている。
- ・第三者評価として、8月に日本医療機能評価機構の受審をし、6回の再認定がされた。

2. 大手町クリニック

基本情報

- ①管理者 志澤 容一郎
- ②所在地 沼津市大手町3丁目1番2 エイブル・コア6F 代表 055-962-7371
- ③診療科 精神科・心療内科
- ④主な届け出受理事等 精神科デイケア(小規模) 精神科ショートケア(小規模)

医療活動

- ・外来・入院間での円滑で切れ目のない医療ケアの提供を目指し、例年通り行っている。
- ・安心して医療を受けられる・提供できる環境、体制の整備を行った。

施設設備の整備計画

- ・診療環境の継続的な改善については確認までにとどまっている。
- ・クラウドネイティブ型電子カルテに更新した。

地域貢献活動

- ・例年通り、可能な限り地域の要請や活動に協力した。

その他の活動

- ・適切な感染対策として、手指消毒、器物の消毒、換気等を継続的に実施している。

3. あたみ中央クリニック（令和7年9月末閉院）

基本情報

- ①管理者 野田 寿恵
- ②所在地 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F 代表 0557-83-7707
- ③診療科 精神科・心療内科

医療活動

- ・経験・実力のあるスタッフで運営できているが、スマートな医療体制という点では人件費率や患者数に課題が残る。
- ・高齢者への治療ケアの体制として、長谷川式や心電図検査の実施、必要時には画像検査の依頼、地域支援者との連携は行えている。
- ・勉強会、研修会の実施、地域施設の見学については、施設見学は行えていないが勉強会については薬の説明会を行い、知識のアップデートはできている。
- ・指定医の退職により令和7年9月末で閉院となった。

施設設備の整備計画

- ・クラウドネイティブ型電子カルテに更新した。

地域貢献活動

- ・サポートセンター、地域包括、施設との連携は行えている。
- ・適切な感染対策として、検温、手指消毒、器物の消毒等を継続している。

4. 訪問看護ステーションふじみ

基本情報

- ①管理者 飯塚 香織
- ②所在地 沼津市中瀬町 2 4 番 1 号
- ③主な届け出受理等 精神科訪問看護基本療養費 医療観察訪問看護基本料

医療活動

- ・地域包括ケアシステムも踏まえ、連絡や会議を通じて関係機関との協力連携を図れた。
- ・自立を促しその人らしさを支える精神科訪問看護スキルの向上についてはできた。

地域貢献活動

- ・地域の精神保健活動は、研修受け入れ、団体役員メンバー、看護学校の講師等可能な限り協力した。

施設設備の整備計画

- ・マイナ保険証読み取りアプリを更新した。しかしカルテ増加に伴う備品については検討中のままで購入に至らなかった。

その他の活動

- ・適切な感染対策を継続し、ステーション内での感染もなく、業務への支障も来たさなかった。また、レセプト電算への切り替えも実施できた。

入院・退院及び在院患者数

	期首在院数	期中入院数	期中退院数	期末在院数	期中延べ数	期中1日当たり
沼津中央病院	240	569	581	228	88,657	242.9

入院・外来取扱患者数

(定床：270 床)

	入 院		外 来		デイケア 作業療法 (外来のみ)		一般外来計	
	期中延	1 日 当	期中延	1 日 当	期中延	1 日 当	期中延	1 日 当
沼津中央病院	88,657	242.9	16,694	57.0	7,920	32.6	24,614	84.0
大手町クリニック			20,769	85.5	3,344	15.4	24,113	99.2
あたみ中央クリニック			3,252	31.6			3,252	31.6

	訪問看護		作業療法 (再掲)	
	期中延	1 日 当	期中延	1 日 当
沼津中央病院			15,299	68.0
訪問看護ステーションふじみ	6,618	22.6		

【鷹岡病院グループ】

1. 概要

令和 7 年度は、「開かれた、選ばれる医療機関」として、医療を通じて社会に貢献できるよう重点項目を「利用者の視点に立った良質で安全な医療と福祉サービスの提供」「マネジメント体制の強化」「全組織的な経営参画」と定め、多様な精神疾患への対応、地域の医療機関・社会資源との更なる連携、人権意識と当事者中心の浸透、人材の育成・確保、病床稼働率の目標達成による安定した経営、デイケア・訪問看護の利用者の増加に取り組んだ。

また、令和 7 年度も令和 6 年度に続き「病床稼働率を上げる」が最重要課題である事を職員に周知し安定した経営を目指し職員一丸となり取り組んだ。

2. 鷹岡病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：高木 啓 病床数 1 5 1 床
- ② 所在地：富士市天間 1 5 8 5 番地 電話（代表） 0 5 4 5－7 1－3 3 7 0
- ③ 診療科：精神科、心療内科
- ④ 主な届け出受理等：精神科救急急性期医療入院料 1、精神療養病棟入院料、精神科デイケア（大規模）、精神科作業療法、精神科訪問看護、県富士圏域精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、認知症疾患医療センター（地域型）

(2) 医療活動

- ① 精神科救急事業については例年通り迅速な対応と受け入れを行った。
- ② 認知症疾患医療センター事業は、専門医療相談・鑑別診断・初期対応や研修会の開催を通じて W e b 等を交えて情報発信を行った。医療連携協議会を 5 年ぶりに対面で実施し情報共有を行った。また、「富士市認知症初期集中支援推進事業」及び「認知症の人を皆で支える地域づくり推進事業」を今年度も受託し、専門職チームによる訪問活動等を実施した。
- ③ 病床利用適正化プロジェクトチーム及び制限緩和検討チームによる取り組みの継続と、入退院調整会議において病床稼働状況、在院患者数の周知徹底を図り病床稼働率の確保を行った。
- ④ 長期入院患者へのクロザリル使用を促進し、精神科救急急性期医療入院料算定基準の確保を図った。
- ⑤ 訪問看護対象者の洗い出しを実施し、多職種による訪問看護を行い、訪問看護件数の増加を図った。
- ⑥ デイケアの送迎ルートの変更、療養病棟退院患者及び外来患者への医師からのアプローチで利用者の増加を図った。
- ⑦ 行動制限最小化に向け、行動制限最小化委員会、管理運営会議等において検討を行った。
- ⑧ 病棟機能の明確化を図り、病状に合わせたスムーズな転棟及び転院を行った。
- ⑨ 院内での事故、高リスクの事例に対し、原因分析と有効な再発防止策の立案と確実な評価を実施した。
- ⑩ 身体科救急医療機関である富士市立中央病院・富士宮市立病院や富士市・富士宮市の救急医療センターとの連携を引き続き図っている。
- ⑪ 電子カルテが令和 8 年 1 月に新規稼働し、導入時は混乱も多少あつが、現在は順調に運用されており、患者の情報共有が速やかになり、仕事が効率化されたと共に診断書等の書類作成がしやすくなり作成期間の短縮がされている。また、病棟及び外来で使用していた連絡票等が少なくなりペーパーレス化が進んでいる。さらに導入したことにより診療報酬に対する意識も画面を通して見ることにより高まってきている。

- ⑫ 摂食障害治療について、昨年度に続き浜松医科大学との情報共有を行った。
- ⑬ うつ・自殺対策の取り組みとして、富士市・富士市医師会等と連携し紹介システムの再周知及び県と連携し自殺未遂者支援ネットワークの構築を図った。
- ⑭ 多様化する精神疾患への対応として富士児童相談所との連携を図った。

(3) 施設設備の整備計画

- ① 電子カルテの導入を実施した。
- ② 電子カルテのネットワーク構築工事を実施した。
- ③ 調理場のエアコン交換工事を実施した。
- ④ 栄養システムの更新を実施した。
- ⑤ 薬剤課全自動分包機の更新を実施した。
- ⑥ 検査室 PACS の更新を実施した。
- ⑦ C棟屋上修繕防水工事を実施した。
- ⑧ B棟4階空調設備の交換を実施した。
- ⑨ 低幅射自動炊飯器の購入を実施した。

(4) 地域貢献活動

- ① 公的機関、諸団体の精神保健福祉分野での協力、援助を行った。
- ② 初期研修医、精神科専攻医、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師・臨床心理士の実習生の受入れを行った。
- ③ 公的機関、地域企業へのメンタルヘルス分野での協力を行った。
- ④ 「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」と連携・協力し、富士地区の法人活動を推進した。
- ⑤ 富士市医師会及び職能団体事業へは、人的派遣等で協力を行った。
- ⑥ 富士市地域防災医療計画にある救護病院（特殊病院）の役割を担っている。

(5) その他の活動

- ① 安否コール（災害安否確認システム）による情報伝達訓練を実施した。
- ② 働き方改革関連法に沿って取り組みの検討を継続し、有給休暇取得の奨励や、医師の日当直業務の回数等を軽減することに取り組んだ。
- ③ 「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」の資質向上については、教育研修員会において、倫理・接遇に関連した院内研修を開催した。
- ④ 実践報告及び研究に取り組める体制を整備し、情報発信できる人材の育成に関しては「ステップアップ活動」への取組等を通じ、成果を収めている。

2. 富士メンタルクリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者：山本 孝
- ② 所在地：富士市本町1番2-201号 電話（代表）0545-64-7655
- ③ 診療科：精神科、心療内科
- ④ 主な届け出受理等：精神科デイケア（小規模）、精神科ショートケア（小規模）
精神科訪問看護

(2) 医療活動

- ① 新規患者の受け入れは、今年度より医師が実施し、昨年度よりも迅速な対応が図られた。
(年間新規患者受入人数；800名)
- ② 多職種間で連携を取り、情報の共有が常に図られ、医療の質の向上を図った。
- ③ 人材の活用・育成の体制構築では、各部署、ユーティリティに活動することが出来るよう、人材を育成することが出来た。
- ④ デイケアでは、利用者の意見や季節を感じるプログラムを実施した。利用者人数は、目標人数(12名)には達しなかったが、年間平均人数としては10.7名であった。
- ⑤ 発達障害の診断を希望するケースは増加しており、概ね迅速な対応を取ることが出来ている。ただし、学習障害(LD)を対象とした検査が十分では無いため、今後の対応については次年度の課題となる。
- ⑥ 訪問看護に関してはスタッフの退職と、新規患者の増加とデイケアの利用者増加に注力した結果、実施することができなかった。

(3) 施設設備の整備計画

- ① 電子カルテを令和8年1月より導入し運用している。

(4) その他の活動

- ① 接遇面では、電子カルテの導入時期と重なり、外来アンケートの実施が出来ていないため、次年度の課題として実施していく(昨年度と同様、紙媒体、Web面の併用予定)。
- ② ホームページ上の更新を常時行うことを徹底し、クリニックからの情報発信を行った。
- ③ 他医療機関からの患者紹介やデイケア受け入れに関して迅速に対応した。

入院・外来取扱患者数

	入 院		外 来		デイケア		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹 岡 病 院	46,357	127.0	23,386	79.8	6,764	27.8	30,150	107.6
富士メンタルクリニック			15,980	55.1	2,586	10.7	18,566	65.8

訪問看護・作業療法取扱患者数

	訪問看護		作業療法	
	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹 岡 病 院	1,133	3.9	14,294	48.9
富士メンタルクリニック	0	0		

[沼津リハビリテーション病院グループ]

1. 概 要

令和7年度における事業経過の要点は以下の通りである。

- 1) 今年度も新型コロナ・季節性インフルエンザ・多剤性菌等の感染症対策を継続しつつ、病院機能の維持・向上に努めた。
急性期病院からの感染症患者の転院受け入れに際しては、個室調整等により柔軟な対応を行い、地域医療体制の維持に寄与した。
- 2) 広報誌発行による広報活動、急性期病院へ定期訪問を通じて連携強化を図り、転院に関する課題の把握と改善に努めた。
- 3) ベットコントロール会議の実施により、急性期病院からの受け入れ待機期間を短縮し、円滑な入院受け入れ体制を確保した。
- 4) 嚥下造影検査機器（VF）による摂食嚥下機能の評価体制を構築し、経鼻栄養患者の受け入れを行った。
- 5) 1)2)3)4)により、回復期リハビリテーション病棟へ多くの入院依頼を受け、病床稼働率が向上した。
- 6) 言語聴覚士を主としたセラピストの充足により、脳血管疾患患者のリハビリテーション提供体制が強化され、脳血管疾患患者の受入増加に繋がった。
- 7) 新たに施設基準の整備を行い3つの加算の届け出を行った。
- 8) 5)6)7)の効果により、入院収入が大幅な増収となった。
- 9) 訪問看護ステーションに関しては、患者数が低調に推移した。今後、当院・新設した看護小規模多機能型居宅事業所・地域医療機関・地域包括支援センター等との連携強化による患者数の回復が必要である。
- 10) 看護小規模多機能型居宅介護事業所は、開設1年目にて積極的な告知活動を行い、利用者が徐々に増加しているが、大幅な赤字計上となった。運営においては大きな事故もなく軌道にのりつつある。
- 11) 法人にて全職員を対象とした賃上げを実施した。

これらの帰結として、病院においては医業収入が増加となった。一方で賃上げによる人件費の上昇、物価高騰による経費の増加、病院設備の修繕費増加により費用も増えたが、医業収入の増加と物価上昇支援事業補助金収入にて黒字を確保することができた。反面、在宅支援事業部の訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護事業所は、利用者の低迷から大幅な赤字となり、グループ全体では病院での黒字では補填しきれず赤字計上となった。

次年度も物価高騰と人件費増加が見込まれ、更に病床稼働率の向上・リハビリテーション単位のアップ・介護利用者の増加、新たな施設基準加算届け等による医業・介護収入の増加と業務の効率化が必要と考える。COVID19のみならず、インフルエンザ等のウイルス感染症、多剤耐性菌感染拡大などのリスクも含め、今後も感染症対策の重要性には大いに留意する必要がある。

2. 沼津リハビリテーション病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：長友 秀樹 病床数：106 床
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-1911
- ③ 診療科：リハビリテーション科、内科、神経内科、消化器内科
- ④ 主な届出受理等：回復期リハビリテーション病棟入院料 1
療養病棟入院基本料 1
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
訪問リハビリテーション

(2) 医療活動

① 回復期リハビリテーション病棟の機能維持・向上

脳卒中地域連携パス、大腿骨近位部骨折連絡会議に多種職で参加、入院支援看護師（専従）が紹介ケースに柔軟な対応を行い待機期間の短縮に努めた。回復期病床稼働率 94.4%。急性期への転院が 16 件/年、前年度比-6 件となった。退院支援看護師を配置し、FIM や ICF を基に作成した退院支援アセスメントシートを活用したカンファレンスを実施、具体的な機能回復の目標をあげたケア介入した。在宅復帰率 88.1%。認知症ケアについての勉強会を実施し、対応力の向上を図り認知症高齢者の日常生活自立度判定表Ⅲ以上の患者が 64.0%となった。退院日を早期に決定できるようパスシートを活用した。福祉施設・行政機関・サードライン病院とのカンファレンスを 1,896 件実施、連携強化に繋がった。

② 医療療養病棟の機能改善

入院患者に対し、多職種カンファレンスの実施にて患者の全体像を共有し、ケア・処遇を検討、タイムリーな支援に繋げることができた。また、地域との連携も図り、計画的な入院（薬剤調整・リハビリ・レスパイト）に繋げた。在宅・急性期間問わず積極的に入院患者を受け入れ、退院支援シートに沿って退院支援を実施し、ケアの向上を図り在宅復帰率 40%となった。言語聴覚士の配置により、口腔ケアや嚥下障害訓練を強化し誤嚥性肺炎を防止した。医療区分 2.3 の割合は 91.74%と維持できた。回復期リハビリテーション非対象患者の受け入れ、急性期病院からの医療度の高い患者、難病患者の受け入れに努めた。

(3) 施設設備の整備

栄養システムの更新、血液ガス分析器の更新、電動ベッドの更新、リハビリテーション器具昇降式平行棒・たっちあつぷセットの設備を行った。

院内の老朽化した空調設備の更新、漏水対策による修繕工事を実施した。

(4) 地域貢献活動

新型コロナワクチン接種に協力し、高齢者施設に出向いての接種を行った。一次救急輪番への協力、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）感染対策連絡会議の参加、研究への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において「オーラルフレイル」に関する研修会を開催し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

(5) その他の活動

人材確保については外部委託業者との連携強化、入職者への優遇策等を告知し、積極的な採用活動を行い人材の確保を行った。

業務改善委員会を発足し、多職種による業務効率化を推進した。

特定行為研修を受講した看護師が医師からタスクシフトシェアを開始した。

3. 訪問看護ステーションうしぶせ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市志下 451 番地 代表：055-931-3900
- ③ 主な届出受理等：24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア療養費

(2) 医療活動

沼津市戸田地区まで訪問範囲を拡大した。在宅サービス資源が少ない地域で訪問看護を提供することでこれまで最期の選択肢が施設に限られていた地域住民が、少しでも長く在宅で生活が続けられるよう支援することが可能となった。

また、小児の訪問看護については、他の訪問看護事業所と連携し、共同で継続的な支援を行っている。さらに、24 時間対応の緊急時支援を継続し、疾患や経済的状況にかかわらず、多様な利用者の訪問看護を受け入れた。

(3) 地域貢献活動

看護学校 3 校の実習を受け入れ、その他、看護大学の研究事業にも協力参加した。

4. 看護小規模多機能型居宅介護事業所汐かぜ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市志下 451 番地 代表：055-934-1200
- ③ 主な届出受理等：看護体制強化加算Ⅱ、特別管理加算Ⅱ、ターミナルケア加算、緊急時対応加算、総合マネジメント体制強化加算Ⅱ、専門管理加算、サービス提供体制強化加算Ⅲ

(2) 在宅支援活動

令和 7 年 2 月に開所し、1 年目の運営となる本年度は、地域住民・地域自治会・近隣の急性期病院・診療所・地域包括支援センターに向けた告知活動を実施した。利用者には「通い」を中心に、「泊まり」「訪問」サービスを円滑に提供できるよう努め、感染症（新型コロナ）罹患などによる緊急ショート利用の要請にも柔軟に対応した。

医療ニーズの高い利用者の介護経験が少ない介護職員に、訪問看護師や外部講師による勉強会を開催し、日々のケアに活かせる学びの機会を設けた。利用者確保のため、要介護 1～2 の利用者の受け入れも積極的に行ったが、泊まりサービスの利用が低調であった。また、がん末期の利用者を受け入れ、ターミナル期にある家族へのケアを看護師と共に行う中で、多くの学びを得ることができた。

(3) 地域貢献活動

2 か月に 1 回、運営推進会議を実施した。会議には自治会長および地域の民生委員が参加し、看多機の運営状況について報告を行った。地域住民も参加するイベント活動や防災訓練の実施については、今後の課題として継続して検討していく必要がある。

沼津リハビリテーション病院

入退院及び在院患者数

(定床：106 床)

入 院	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	1日当（人/日）
医 療	93	251	240	101	35,313	96.8

外来取扱患者数

外 来		訪問リハビリ	
期中延	1日当（人/日）	期中延	1日当（人/日）
7,691	31.6	632	2.7

訪問看護ステーションうしぶせ取扱患者数

	訪問看護	
	期中延	1日当（人/日）
医 療	1,971	6.3
介 護	3,272	10.5
計	5,243	16.8

看護小規模多機能型居宅介護事業所汐かぜ取扱利用者数

期中延	1日当（人/日）
5,743	15.7

VI. 福祉活動

[本部・社会復帰事業部]

1. 概要

令和7年度本部においては（1）ガバナンス強化（2）システム化の推進（3）適正な人事・労務管理（4）収益力の強化の4項目を重点目標に掲げ、厳しい経営環境の中で経営の健全性を維持し、収益性の向上に取り組んできた。

運営方針である「組織力を強化し、経営の健全性を維持し、収益性を向上させる体制に変革する」については、物価高騰や人件費増加等の厳しい環境下にも拘らず、各事業所の経営努力により令和6年度に続き2期連続黒字計上できたことは大きな成果であった。

システム化の推進においては、クラウドネイティブ型電子カルテを沼津中央病院と鷹岡病院で導入しセキュリティ対策強化を図った。また、患者の利便性向上のためキャッシュレス化を推進し沼津中央病院と鷹岡病院では医療費のクレジットカード決済準備を行い令和8年4月から稼働している。さらに沼津中央病院の売店では、令和7年10月に2階から1階への移転と同時にQRコード決済を導入した。

また、人的資本経営に向けた人事制度の改定については、検討段階に留まり具体的な計画策定には至っていない。

社会復帰事業部においては各重点項目に基づき事業の推進を図った。まず、停滞していた相談支援事業の再編による集中化と効率化については、年度後半より一元化に向けた具体的準備を進め、各市町との協議を重ねた結果、次年度より相談支援事業の一元化を実施できる見通しとなった。これにより、利用者の利便性向上と安定的運営が期待される。

次に、ピアスタッフの真価が発揮できる環境づくりについては、関係事業所の代表者による検討を継続したものの、受入れ体制の明確化や統括者の設置には至らなかった。一方で、個別支援や講師依頼は法人内外から多数寄せられ、ピアスタッフの活躍の場は着実に広がっている。

災害・感染対策の強化と地域協働による事業展開については、地域・圏域自立支援協議会、防災訓練や地域行事への参加も各事業所で取り組んだ。また、グループホームにおける地域連携推進会議については、今年度初めて開催し、ご家族や地域の方にも日常の支援を知っていただく機会となった。

感染対策では、新型コロナウイルス感染症のまん延を受け、予防を中心とした感染症対策の学習を改めて行ったが、今後はより重点的な学習が必要であると考えられた。

教育研修を通じた人材育成については、種別ごとの会議や事例検討会、非常勤職員交流研修等横断的な企画を取り入れ、事業部全体で職員の育成を行ってきた。人材確保については、募集方法の工夫等から応募もあり、必要な人材の確保は達成できた。

ワークショップまごころ及びサポートセンターひまりについては、事業所家賃の高騰等により、令和7年6月に市内の駅から離れた場所へ移転した。

相談事業所サポートセンターほっと及びグループホームふじみについては、運営上の課題から今年度末で廃止となった。

2. 本部事務局

（1）ガバナンス強化

前月の各病院等の業績速報を報告・情報共有するとともに、課題や改善策を検討する場とて、毎月の経営会議の機能強化が図れた。

（2）システム化の推進

クラウドネイティブ型電子カルテに沼津中央病院は更新し、同システムを鷹岡病院は新規導入しセキュリティ対策強化を図った。今後、沼津リハビリテーション病院においてもクラウドネイティブ型電子カルテの導入を検討している。また、社会復帰事業部の「相談支援システム」をオンプレミスからクラウド方式に更改した。

（3）適正な人員・労務管理

事務局として、本部と各事業所との良好な人間関係を図りつつ、本部と病院間での事務職員の人事交流を積極的進めた。次年度についても引き続き人事交流を推進していきたい。

(4) 収益力の強化

利上げの効果で金融資産の運用収入が増加し、本部収支は赤字が縮小した。

収益事業においては、外部委託していた病院売店事業を本部で譲り受け、沼津中央病院では2階にあった売店を1階に移転し売上増加により収益向上が図られた。しかしながら、鷹岡病院と沼津リハビリテーション病院の売店については売上低迷し、赤字基調となっている。

また、元あたま中央クリニックの空室の有効活用としてテナント募集しているが実現には至っていない。今後は売店事業の黒字化と遊休不動産の活用により収益力の強化を図りたい。

3. 社会復帰事業部

1 社会復帰事業活動

1) 相談支援事業

今年度も引き続き各市町から委託相談、指定特定・一般相談支援事業をサポートセンターなかせ・ゆめワーク・ほっと・りりぶ・ひまりの5事業所で実施。一方、今後中長期的な人材不足の見込みから効率的に運営や人材育成を行うため、次年度にむけて相談支援事業所の一元化の準備を進めてきた。その中でサポートセンターほっとについては、厳しい運営状況から今年度末で廃止となるが、現在担当している計画相談利用者については一元化の中で引き継いでいく。また、サポートセンターひまりについては、家賃高騰、駐車場確保が厳しい状況から、ワークショップまごころと共に市内に移転した。

計画相談については全体的にも件数が多く、2ヶ月に一回相談支援事業所の相談支援専門員が顔を合わせ、それぞれの地域の状況や個別のケース支援の状況等共有する機会を持つ。来年度一元化となるが、複数の市町にまたがり相談支援事業を展開している法人の強みを生かし、その地域性の違いを意識した仕組み作りに取り組んでいければと考える。

県・圏域・市町それぞれの単位の自立支援協議会には、中核人材として各専門部会等に主体的・積極的に関わり、関係機関から求められる役割を果たすことを意識した。ピアスタッフ・サポーターとの協働についても、活動の場を創出する工夫など圏域・市町異なる枠組みでそれぞれ行った。

引き続き個別の支援・地域づくりに連動した形で取り組むことと並行し、法人内の相談支援事業所の体制を整え、安定的な運営と各相談支援専門員の負担軽減とやりがいに繋げていきたい。

2) 地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク、サポートセンターりりぶの2か所で実施。今年度よりサポートセンターゆめワークは体制の変更により「機能強化事業Ⅱ」となった。また、サポートセンターりりぶは隣接するあたま中央クリニックの閉院に伴い、通院の行き帰りに利用していた利用者が微減した。しかし、そのような状況下であっても、利用者のニーズを踏まえたプログラムの企画や、主体的に参加できるようなフォローを行いながら運営に努めた。

また、ボランティアとの接点を持つ機会も設け、活動を通して楽しみや交流を深めることができた。さらに、社会復帰事業部で雇用しているピアスタッフ（当時者）が両センターに月1回程度勤務することで利用者、職員にとって良い学びの機会となった。

今年度も「秋ふく祭・ふくスポ」も開催し、企画から当日の運営含め法人内の事業所同士が協力しながら実施した。普段、法人内の利用者同士が関わる機会が少ない中で、創作活動等の成果を披露する場を持てたことは、参加者から「参加できて良かった」という感想をいただくなど、貴重な機会となった。

地域活動支援センターは、機能分化した障害福祉サービスが増えている中でも、居場所や気軽に相談できる場として重要な役割を果たしていると考ええる。

来年度も当事者主体による取り組み、ピアスタッフとの協働、地域行事への参加、ボランティア育成など、地域に開かれたセンター運営に努めていきたい。

3) 共同生活援助事業

グループホームコーボ狩野・はまゆう寮・カーサ岡の宮・ふじみの4か所で実施。

グループホームふじみについては令和7年度をもって閉所となった。ここ近年ワンルームタイプで夜

間休日対応のグループホームが続々と新規オープンする中、ふじみは2名1組での入居形態となっており、夜間休日の職員配置や食事提供を行っておらず、新規入居申し込みが減少傾向にあった。入居していた方々には他事業所や老人施設への移行等受け入れ先を調整させていただいた。地域の夜間休日対応のニーズは高く、法人内の他グループホームでも新規申し込みの減少が見込まれる。法人内のグループホーム間で、利用者のニーズに応じた利用施設の調整を図り、各グループホームが有効活用されるようにしていきたい。

今後も生活の場として安心できる生活環境づくりと、地域や利用者のニーズに合わせた支援を行えるようにスタッフの資質向上・支援の担保に努めていく。

4) 就労支援事業

東部圏域（沼津・三島・伊豆の国）3ヵ所で就労継続支援B型事業を実施。

「ワークショップまごころ」については、内職および農作業場建物の老朽化が進行していることに加え、店舗においては家賃の高騰や駐車場確保の困難といった課題が生じていた。これらの状況を踏まえ、内職部門と店舗機能を統合し、令和7年6月に三島市内への移転となった。

ここ数年、各地域に様々な就労系の事業所が開設される中、利用者から選ばれるよう地域や利用者のニーズを把握し、家族・関係機関とも連携した丁寧な個別支援が求められている。

今年度も国内外の様々な情勢の影響を受け価格高騰が著しく、商品の質の担保と売値の設定に苦慮した。授産収益が利用者の工賃になることも踏まえ、販売している商品に見合った売値をどうしていくのか、魅力的な新商品開発など今後も検討課題であると思われる。その他にも夏には猛暑日も続き、適切な作業環境の確保や3事業所とも食品の取り扱いをしているため、商品の品質保持なども課題となっている。

また、今年度は金銭のやり取りの透明性の確保などを目的に、利用者への工賃支給を現金手渡しから口座振り込みに変更した。また、キャッシュレス決済の普及に伴う販売時におけるスマホ決済導入なども進めている。

今後も一般就労への支援や利用者・家族の高齢化等様々な課題について前向きに取り組み、利用者を選ばれ、安心して通所出来る環境づくりに努めていく。

2 地域貢献活動

- 1) 静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。
- 2) 沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、伊東熱海地区、富士市、長泉町地域自立支援協議会の運営に協力した。
- 3) 沼津市、伊豆の国市から委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。
- 4) 沼津市、伊東市、熱海市、伊豆市・伊豆の国市、清水町の障害支援区分判定審査会委員として地域に貢献した。

3 社会復帰事業部各施設 取扱利用者数

相談・訪問件数（延件数）

（令和7年4月～令和8年3月）

	来 所	電 話	訪 問	その他	合 計
ゆめワーク	131	528	1,139	1,424	3,222
なかせ	174	2,146	1,196	3,935	7,451
ひまり	97	807	1,076	2,419	4,399
りりぶ	423	4,165	796	2,531	7,915
ほっと	33	442	267	1,162	1,904
合 計	858	8,088	4,474	11,471	24,891

地域活動支援利用状況（延人数）

（令和7年4月～令和8年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゆめ	321	321	326	378	330	363	381	286	308	269	264	315	3,862
りりぶ	79	84	99	99	108	119	113	137	128	123	97	122	1,308
合計	400	405	425	477	438	482	494	423	436	392	361	437	5,170

グループホーム利用状況

（令和8年3月31日現在）

施設名	定員	出身市町													合計
		富士	沼津	伊東	富士宮	裾野	三島	御殿場	伊豆の国	熱海	伊豆	長泉	清水	その他	
ふじみ	10														0
カーサ岡の宮	10		4	2										1	7
はまゆう	9		2	1	1	1	1			1		1			8
コーポ狩野	18	1	7	1	1		1		2		1	1	3		18

就労支援事業所かのん利用状況

（令和7年4月～令和8年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	51	50	50	53	54	54	54	54	54	54	54	53	
開所日数	24	23	24	25	21	23	25	22	23	22	20	24	276
実人数	43	41	42	45	45	45	39	38	39	40	40	40	
延べ人数	481	431	425	450	363	426	482	427	505	474	461	511	5,436
1日平均	20.0	18.7	17.7	18.0	17.3	18.5	19.3	19.4	22.0	21.5	23.1	21.3	19.7

就労支援事業所ワークショップまごころ利用状況

（令和7年4月～令和8年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	32	32	28	28	28	27	29	29	28	28	27	27	
開所日数	25	24	25	26	22	24	26	26	25	23	22	25	293
実人数	26	26	25	26	23	22	24	24	26	25	22	24	
延人数	354	331	331	348	271	299	300	301	337	308	268	323	3,771
1日平均	14.2	13.8	13.2	13.4	12.3	12.5	11.5	11.6	13.5	13.4	12.2	12.9	12.9

就労支援事業所田方・ゆめワーク利用状況

（令和7年4月～令和8年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	22	23	23	24	26	25	25	25	23	21	21	21	
開所日数	21	20	20	22	18	20	23	20	21	19	17	21	242
実人数	18	19	19	21	22	22	22	21	21	19	19	19	
延人数	294	288	285	329	304	337	352	272	281	243	235	280	3,500
1日平均	14.0	14.4	14.3	15.0	16.9	16.9	15.3	13.6	13.4	12.8	13.8	13.3	14.5

Ⅶ. 地域貢献活動

〔１〕 講演開催状況

沼津中央病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2025. 8. 1	社会医療法人へいあん 平安病院	第 27 回社会医療法人へいあん 医学会 「精神科救急・地域精神医療と 当事者性 公益財団法人とし ての私たちの歩みとともに」	杉 山 直 也	社会医療法人へいあん
2025. 9. 24	上田市医師会館	令和 7 年度「救急の日」に関する 救命救急講演会 「一般科と精神科の救急医療 の連携について」	杉 山 直 也	上田市医師会
2025.10. 8	会津若松ワシントンホテル	第 21 回会津地域統合失調症研 究会特別講演「精神科・急性期 におけるケアを考える」	杉 山 直 也	会津地域統合失調症研究会 大塚製薬株式会社
2025.10.25	静岡パルシェ	第 17 回静岡県精神科救急医療 研究会講演Ⅰ「精神科救急・急 性期におけるケアを考える」	杉 山 直 也	静岡県精神科救急医療研究 会大塚製薬株式会社
2025.11.20	オンライン	イフェクサーSR Web Week in 東海関西北陸「自殺対策 Update」	杉 山 直 也	ヴィアトリス製薬合同会社
2025.11.20	プラサヴェルデ	Otsuka WEB Seminar in 三重～ より良い統合失調症急性期治 療を考える～ 「精神科救急・急性期における ケアを考える」	杉 山 直 也	大塚製薬株式会社
2025.12.11	オンライン	HOPE IN SCHIZOPHRENIA 「地域生活を見据えた治療戦 略～ゼプリオン導入からつな ぐゼプリオン TRI への道～」	杉 山 直 也	ヤンセンファーマ株式会社 住友ファーマ株式会社
2025.12.14	TKP 市ヶ谷カンファレンス センター	自殺未遂者ケア研修 対面研修プログラム「自殺未 遂者ガイドラインの説明」	杉 山 直 也	日本精神科救急学会
2026. 2 . 4	ホテルニューオータニ長岡	第 10 回みんなで精神科医療の 今後を考える「精神科救急・急 性期におけるケアを考える」	杉 山 直 也	大塚製薬株式会社
2025. 7. 24	プラサヴェルデ	沼津薬剤師会学術講演会 「不眠症薬物療法における薬 剤師への期待～医療安全の側 面から～」	日 野 耕 介	エーザイ株式会社
2025. 7. 24	プラサヴェルデ	沼津薬剤師会学術講演会 「睡眠薬の安全な使用につい て考える」	秋 山 和 美	沼津薬剤師会
2025. 8. 22	沼津市立図書館	虐待防止研修	竹 内 晃	看護協会
2025. 8. 22	沼津市立図書館	令和 7 年度精神科病院虐待対 応医療従事者向け研修	植 田 裕 吾	日本精神科看護協会静岡支 部
2025. 9. 5	日本精神科看護協会本部研 修室品川	組織やチームで取組む行動制 限最小化	牛 島 一 成 佐 藤 義 崇 内 田 千 恵	日本精神科看護協会
2025. 9. 19	アクトシティー浜松	令和 7 年度精神科病院虐待対 応医療従事者向け研修	植 田 裕 吾	日本精神科看護協会静岡支 部
2025.11.10	熱海市総合福祉センター	ピア交流会	竹 内 晃	熱海伊東圏域地域移行部会
2025.11.15	男女共同参画センターあざ れあ	令和 7 年度精神科病院虐待対 応医療従事者向け研修	植 田 裕 吾	日本精神科看護協会静岡支 部

2025. 11. 21	ホスピタルプラザビル	全国病院経営管理学会第60回大会	田 畑 久 美	全国病院経営管理学会
2025. 11. 28	アイセル 21	権利擁護研修	竹 内 晃	静岡県精神保健福祉協会
2025. 12. 6	日本大学	老年臨床心理学会シンポジウム「老年臨床心理学実践の課題と将来像」	植 田 裕 吾	日本老年臨床心理学会
2026. 1. 27	静岡県総合社会福祉会館	静岡県精神障害者ピアサポート研修フォローアップ研修	久野 満津代	静岡県
2026. 2. 2	伊豆函南病院	駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹 内 晃	駿東田方圏域地域移行部会
2026. 2. 3	沼津中央病院	駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹 内 晃	駿東田方圏域地域移行部会
2026. 3. 3	ふれあい沼津ホスピタル	駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹 内 晃	駿東田方圏域地域移行部会
2026. 3. 11	三島森田病院	駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹 内 晃	駿東田方圏域地域移行部会

鷹岡病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2025. 7. 1	大富士交流センター	脳の健康教室	水 野 拓 二	さくら会
2025. 7. 15	ロゼシアター	介護支援専門員基礎研修「認知症初期集中支援チームの活動について」	白 川 怜 小 伊 東 宏 祥	富士市福祉部高齢者支援課
2025. 9. 20	ソニックシティ	「にも包括をすすめる看護力」	小 山 隆 太	地域で暮らそうネットワーク
2026. 3. 2	ロゼシアター	認知症医療連携セミナー 「認知症疾患医療センターの現状」	水 野 拓 二	エーザイ

沼津リハビリテーション病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2025. 6. 10	東名町コミュニティホール	聴覚フレイルと嚥下障害の予防	平 柳 慧	沼津市長寿福祉課
2025. 6. 12	門池地区センター	フレイル予防と社会参加～高齢期の社会参加とは～	宮 内 あすか	沼津市長寿福祉課
2025. 6. 19	松下町公会堂	フレイル予防と運動～筋肉量の維持と低下を予防する体操の紹介～	白 井 伸 洋	沼津市長寿福祉課
2025. 8. 5	下河原西町公会堂	介護予防・転倒予防のための体操	佐 藤 美 穂	沼津市長寿福祉課
2025. 9. 3	戸田地区センター	フレイル予防～自宅のできる体操～	西 島 勇	沼津市長寿福祉課
2025. 9. 8	下香貫自治会館	フレイル予防	佐 藤 美 穂	沼津市長寿福祉課
2025. 9. 18	自由が丘団地集会場	フレイル予防～どうすれば立ち上がりが上手くなるのか～	西 島 勇	沼津市長寿福祉課
2025. 9. 29	藤井原町自治会館	フレイル予防対策について	高 木 嘉 希	沼津市長寿福祉課
2025. 10. 24	中沢田公会堂	いつまでも日常生活が送れるための体力づくり・レクリエーション	野 田 真 帆	沼津市長寿福祉課
2025. 11. 5	寿町公会堂	自宅のできる予防体操～腰痛・膝痛予防～	高 木 嘉 希	沼津市長寿福祉課
2025. 11. 9	松沢町自治会館	高齢者でもできる転倒予防体操	西 島 勇	沼津市長寿福祉課
2025. 11. 11	平町1丁目集会場	自宅のできる介護予防体操	西 島 勇	沼津市長寿福祉課
2026. 2. 25	戸田地区センター	日常生活の中で取り組める転倒予防	西 島 勇	沼津市長寿福祉課

訪問看護ステーションうしぶせ

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2025. 10. 5	ホテルグランヒルズ静岡	「シズケア＊ささえあい連携シート」の活用に向けて	松川 香 織	静岡県医師会 シズケアサポートセンター

社会復帰事業部

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2025. 5. 15	静岡県庁	市町障害福祉担当職員等研修	佐藤聖美	静岡県
2025. 6. 24	国際医療福祉大学	精神看護学演習	鈴木伸二 石川淳 山崎将展	
2025. 7/29. 7/30. 9/12 . 11/18. 11/19	シズウェル・労政会館	令和7年度相談支援従事者初任者研修演習講師	佐藤聖美	静岡県
2025. 8/5. 8/6	シズウェル	静岡県障害者ピアサポート研修（基礎）	石川淳 山崎将展	静岡県
2025. 8. 18	グランシップ	医療的ケア児・者家族等のつながりづくり推進フォーラム	佐藤聖美	静岡県社会福祉協議会
2025. 5. 20	静岡県総合庁舎	精神保健福祉業務基礎研修会	鈴木伸二・石川淳・山崎将展	静岡県精神保健福祉センター
2025. 9/18. 9/19 10/28. 10/29 12/16	シズウェル	令和7年度相談支援従事者現任研修演習講師	鈴木伸二	静岡県
2025. 10/8. 10/9	静岡県総合社会福祉会館	静岡県精神障害者ピアサポート研修（専門研修）	石川淳 山崎将展	静岡県
2025. 10. 11	熱海市保健福祉センター	熱海市市民後見人養成研修	秋津崇史	熱海市社会福祉協議会
2025. 11. 21	伊東市健康福祉センター	伊東市市民後見人養成研修	秋津崇史	伊東市社会福祉協議会
2025. 12. 8	グランシップ	静岡県地域移行地域定着研修	石川淳	静岡県
2025. 12. 19	韮山保健・福祉センター	伊豆の国市市民後見人養成講座	青木大輔 武井紗知	伊豆の国市・伊豆市社会福祉協議会
2026. 1. 15～16	静岡県総合社会福祉会館	主任相談支援専門員研修	鈴木伸二	静岡県
2026. 1/27. 1/28	静岡産業経済会館	精神障害者ピアサポート研修（フォローアップ研修）	佐藤聖美 鈴木伸二 石川淳 山崎将展	静岡県
2026. 3. 9	東部総合庁舎	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会研修会	鈴木伸二	東部健康福祉センター

〔2〕 嘱託医の受託

病 院	施 設 名	担 当 医
沼 津 中 央 病 院	(福)悠雲寮 静香会 (福)野菊寮 (福)遊法苑 宏寿会	梶 本 光 要 梶 本 光 要 浅 倉 博 幸

	(福)高尾園 春風会 (4/1 ~ 9/30) (福)高尾園 春風会 (10/1 ~ 3/31) 社会福祉法人ミルトス会 駿東学園 名古屋国税局 精神科専門医	山下 大翔 道部 晃 浅倉 博幸 坂 晶
鷹 岡 病 院	(株)東芝キヤリア 三生医薬 (株)	高 木 啓 高 木 啓
沼津リハビリテーション病院	(福)信愛会 めまづホーム (福)信愛会 和みの郷	杉 山 元信 杉 山 元信

〔３〕 実習病院の受託

病 院	委 託 施 設 ・ 機 関 等
沼 津 中 央 病 院	桜美林大学大学院 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法士学科 御殿場看護学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 静岡大学大学院 静岡福祉大学 順天堂大学保健看護学部 常葉大学健康科学部看護学科 常葉大学大学院 日本精神科看護協会認定看護師 沼津市立看護専門学校 山梨県立大学 静岡県立大学看護学部
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校 第1看護学科 静岡県立看護専門学校 第2看護学科 静岡福祉大学 社会福祉学部 福祉心理学科 日本福祉大学 通信教育科 聖徳大学 通信教育部 心理・福祉学部 社会福祉学科 国際医療福祉大学 小田原保健医学部 作業療法学科 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 富士リハビリテーション大学校 作業療法学科 静岡英和学院大学 人間社会学部人間社会学科 静岡大学大学院 人文社会科学部研究科臨床心理学コース 聖徳大学 通信教育部 心理・福祉学部 心理学科
沼津リハビリテーション病院	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 常葉大学 健康科学部 静岡理学療法学科 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科 静岡東都医療専門学校 理学療法学科 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科・作業療法学科 静岡医療科学専門学校 理学療法学科 東京医薬看護専門学校 言語聴覚士科 順天堂大学 保健看護学部 静岡県ナースセンター (県内高等学校)
訪問看護ステーションうしぶせ	静岡県立看護専門学校

	沼津市立看護専門学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校
社 会 復 帰 事 業 部	順天堂大学 保健看護学部 聖徳大学 精神保健福祉士養成課程
社 会 復 帰 事 業 部	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校 静岡県立看護専門学校 静岡県立伊豆の国特別支援学校 伊豆の国市立長岡中学校 伊豆の国市立大仁中学校

〔４〕 大学・看護学校への講師派遣

病 院	施 設 名	講 師
沼 津 中 央 病 院	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 同上 沼津市立看護専門学校 静岡県立看護専門学校 御殿場看護学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護大学 済生会静岡看護専門学校 静岡福祉大学	井本 亘重 谷口 弘樹 今井 亮太, 飯塚 香織, 麻場 英聖 市川 容代, 小嶋 有美, 麻場 英聖 小林 久美子, 飯塚 香織, 牛島 一成 葛城 芳弘, 山田 信昭 麻場 英聖 植田 裕吾 植田 裕吾
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校 JA 静岡厚生連するが看護専門学校 静岡英和学院大学 日本福祉大学 聖隷クリストファー大学	渡辺 睦子, 曾根 満寿代 久保 伸年, 山口 雅弘 曾根 満寿代 久保 伸年 山口 雅弘 小山 隆太
富 士 メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	富士市立看護専門学校	鈴木 順一
沼津リハビリテーション病院	静岡東都医療専門学校 理学療法学科 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科 作業療法士学科	西島 勇, 福澤 大輝 白井 伸洋 伊藤 美有紀, 内田 朱音
社 会 復 帰 事 業 部	沼津市立看護専門学校	青木大輔・小山千菜美 山下圭美

〔５〕 関連諸団体の活動

病 院	活 動 内 容	役 職 名	担 当 者
沼 津 中 央 病 院	日本精神科救急学会	理事長、理事 評 議 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 教育研修委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 医療政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 認定医制度委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本自殺予防学会	理 事	杉 山 直 也
	全国病院経営管理学会 精神科マネジメント専門部会	部 会 長	杉 山 直 也
	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部	客 員 研 究 員	杉 山 直 也
	日本医療機能評価機構 検討会	委 員	杉 山 直 也
	横浜市立大学	客 員 教 授	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会	代 議 員	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会 政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡県精神科病院協会	副会長、理事	杉 山 直 也
	静岡県精神保健福祉協会	評 議 員	杉 山 直 也
	沼津市立病院・静岡医療センター合同地域医療支援病 院運営委員会	委 員	杉 山 直 也
	沼津市立病院地域医療連携推進委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡医療センター地域医療支援病院運営委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡県東部精神科医会	代 表 世 話 人	杉 山 直 也
	静岡県精神科救急医療研究会	世 話 人	杉 山 直 也
	地方公務員災害補償基金静岡支部	相 談 医	杉 山 直 也
	日本臨床救急医学会 PEEC コース運営および新コース 開催ワーキンググループ	委 員 長	日 野 耕 介
	日本臨床救急医学会 妊産婦の自殺予防のためのワー キンググループ	委 員	日 野 耕 介
	日本精神科救急医学会 救急医療連携推進小委員会	委 員	日 野 耕 介
	日本総合病院精神医学会 身体科救急連携委員会	委 員	日 野 耕 介
	日本精神科救急学会	代 議 員	日 野 耕 介
	日本精神科看護協会静岡県支部	支 部 長	牛 島 一 成
	静岡県病院薬剤師会	評 議 員	秋 山 和 美
	静岡県病院薬剤師会	学術部精神科 委 員	秋 山 和 美
	静岡県治験ネットワーク推進部会	委 員	秋 山 和 美
	沼津市障害支援区分判定審査会	委 員	久 野 満 津 代
	静岡県精神医療審査会	委 員	久 野 満 津 代
	裾野市障害支援区分判定審査会	委 員	杉 山 智 子
	一般社団法人日本病院会事業 全国病院経営管理学会 精神科マネジメント専門部会	精神科マネジメント 専 門 部 会 副部会長補佐	田 畑 久 美
	一般社団法人日本病院会事業	診療報酬作業 小委員会委員	田 畑 久 美
	一般社団法人 日本施設基準管理士協会 精神科部会	編 集 委 員	田 畑 久 美

	全国医事研究会	理事 診療報酬委員会 精神分野委員 全国医事研究会 内精神科勉強会書記	田畑久美 田畑久美 田畑久美
鷹岡病院	静岡県障害者スポーツ協会 静岡県精神保健福祉協会 認知症のひと家族の会静岡支部 富士市医師会 ユニバーサル就労を拓ける会	評議員 常務理事 顧問 監事 顧問	石田多嘉子 高木啓 高木啓 高木啓 高木啓
沼津リハビリテーション病院	看看連携 沼津・清水町・長泉町（静岡県看護協会） 東部地区支部（静岡県看護協会）	活動メンバー 役員	長倉雅希 長倉雅希
訪問看護ステーション うしぶせ	看看連携 沼津・清水町・長泉町（静岡県看護協会）	活動メンバー	松川香織

〔６〕 公的機関の医療・福祉活動への協力

沼津中央病院

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
DPAT 運営協議会	委員	厚生労働省委託業務 DPAT 事務局	杉山直也
静岡県公安委員会	認定医	静岡県公安委員会	杉山直也
静岡県精神保健福祉審議会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県精神医療審査会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
	会長代理		
静岡県自殺対策連絡協議会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県措置入院適正運営協議会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡 DPAT 連絡協議会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
措置入院適正運営協議会 東部保健所部会	委員	静岡県東部保健所	杉山直也
措置入院適正運営協議会 熱海保健所部会	委員	静岡県熱海保健所	杉山直也
駿東田方圏域保険医療協議会	委員	駿東田方圏域保険医療協議会	杉山直也
駿東田方構想区域地域医療構想調整会議	委員	静岡県東部健康福祉センター	杉山直也
ふじのくに地域医療支援センター東部支部	運営委員	ふじのくに地域医療支援センター東部支部	杉山直也
行動制限最小化プロジェクトチーム	委員	神奈川県がん・疾病対策課精神医療グループ	杉山直也
駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委員	駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会委員	杉山直也
沼津・御殿場地域産業保健センター運営協議会	委員	独立行政法人労働者健康安全機構静岡産業保健総合支援センター	杉山直也
沼津市自殺対策連絡会	アドバイザー	沼津市健康づくり課成人保健係	杉山直也
いのち支える沼津市自殺対策計画策定懇話会	会長、委員	沼津市健康づくり課成人保健係	杉山直也
清水町自殺対策推進連絡協議会	会長、委員	清水町福祉介護課	杉山直也
精神科医会	会長	沼津医師会	杉山直也
認知症対策委員会	委員	沼津医師会	杉山直也

沼津市就学支援委員会	委 員	沼津市教育委員会(4/1～9/30) 沼津市教育委員会(10/1～3/31)	伊 藤 慶 日 野 耕 介
東京都杉並区自殺未遂者支援事例検討会	スーパ-バイザー	杉並保健所	日 野 耕 介
駿東・田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	静岡県東部健康福祉センター	日 野 耕 介
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	日 野 耕 介
学生生活支援室専門職会議でのアドバイス	精 神 科 医 師	沼津工業高等専門学校	志 澤 容 一 郎
静岡県警察本部職場復帰相談	相 談 医	静岡県警察本部	志 澤 容 一 郎
静岡県職員健康相談（メンタルヘルス）	非 常 勤 健 康 相 談 員	静岡県	志 澤 容 一 郎
小山町老人ホーム入所判定部会	委 員	駿東郡小山町事務所	坂 晶
長泉町老人ホーム入所判定部会	委 員	長泉町事務所	坂 晶
函南町老人ホーム入所判定部会	委 員	函南町事務所	坂 晶
伊豆の国市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆の国市福祉事務所	坂 晶
裾野市老人ホーム入所判定部会	委 員	裾野市福祉事務所	坂 晶
清水町老人ホーム入所判定部会	委 員	清水町事務所	坂 晶
伊豆市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆市事務所	坂 晶
東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	委 員	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
沼津警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	沼津警察署	坂 晶
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	横 島 孝 至
静岡県入院者訪問支者養成研修	講 師	静岡県	牛 島 一 成
静岡県令和7年度行動制限最小化研修	講 師	静岡県	牛 島 一 成
			佐 藤 義 崇
			内 田 千 恵
こころの健康相談員	課 長	清水町役場	市 川 容 代
ピア交流会	委 員	静岡県	竹 内 晃
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県	竹 内 晃
倫理委員長、医療保健領域委員、高齢者福祉委員、研修委員	理 事	一般社団法人 静岡県公認心理師協会	植 田 裕 吾
カウンセラー	カ ウ ン セ ラ ー	認定 NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター	植 田 裕 吾
静岡保護観察所薬物再乱用予防プログラム	スーパ-バイザー	静岡保護観察所	植 田 裕 吾
グループセラピースーパーバイザー			
医療保健領域委員	委 員	一般社団法人 静岡県公認心理師協会	小 川 日 恋 乃
沼津市自立支援協議会地域移行専門部会	構 成 員	沼津市障害福祉課	寺 田 朝 子
熱海伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県熱海健康福祉センター	寺 田 朝 子
伊豆市いのち支える自殺対策協議会	委 員	伊豆市健康長寿課	寺 田 朝 子
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県	久 野 満 津 代
清水町障害者自立支援協議会	委 員	清水町	平 井 智 未
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	構 成 員	静岡県東部健康福祉センター	室 山 美 希

鷹岡病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県精神科救急システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県 D P A T 連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓

静岡県医療観察制度運営連絡協議会	協議員	祉課	高 木 啓
静岡県自殺対策連絡協議会	委員	静岡保護観察所	久 保 伸 年
静岡地方労災医員	医 員	静岡健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県精神保健福祉協会運営委員会	委員	静岡労働局	水 野 拓 二
一般医から精神科医への紹介システム運営委員会	委員	静岡県精神保健福祉協会	高 木 啓
富士市老人ホーム入所判定委員会	委員	富士市医師会	高 木 啓
富士市認知症施策推進検討委員会	委員長	富士市福祉部高齢者支援課	高 木 啓
富士市障害者自立支援協議会代表者会議	委員	富士市保健部介護保険課	高 木 啓
富士市差別解消支援協議会	委員	富士市福祉部障害福祉課	水 野 拓 二
富士市自殺対策推進会議	会長	富士市福祉部障害福祉課	高 木 啓
富士宮市認知症医療研究会	委員	富士市保健部健康政策課	高 木 啓
静岡市精神医療審査会	委員	富士市保健部健康政策課	久 保 伸 年
富士圏域自立支援協議会	構成員	富士宮市高齢介護支援課	高 木 啓
富士圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委員	静岡市こころの健康センター	高 木 啓
富士圏域地域医療構想調整会議	委員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域自殺未遂者支援ネットワーク会議	委員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域措置入院適正運営協議会	委員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士市いじめ問題対策推進委員会	委員	富士保健所	高 木 啓
富士市立中央病院臨床研修管理委員会	委員	富士保健所	高 木 啓
富士宮市立病院臨床研修管理委員会	委員	富士市教育委員会	高 木 啓
ふじのくに地域医療支援センター東部支部運営会議	委員	富士市立中央病院	高 木 啓
医療観察法研究協議会	委員	富士宮市立病院	高 木 啓
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委員	東部保健所	高 木 啓
富士圏域自立支援協議会地域移行定着部会	部長	静岡地方裁判所	高 木 啓
富士警察署犯罪被害者支援連絡協議会	構成員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	田 中 秀 樹
富士市障害支援区分認定審査会	構成員	富士健康福祉センター	山 口 雅 弘
富士宮市権利擁護ネットワーク会議	委員	富士警察署	田 中 秀 樹
御殿場市いじめの防止等対策推進委員会	委員	富士市福祉部障害福祉課	川 口 恭 子
小山町いじめ問題専門委員会	委員	富士宮市介護障害支援課	久 保 伸 年
		御殿場市教育委員会	白 川 怜 小
		小山町教育委員会	山 口 雅 弘
			山 口 雅 弘

沼津リハビリテーション病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認定審査員	沼津市介護保険課	岩 本 和 也
沼津市フレイル予防事業	フレイルトレーナー	沼津市長寿福祉課	西 島 勇
沼津市障害支援区分判定審査会	審査委員	沼津市障がい福祉課	鈴 木 惇 也

訪問看護ステーションうしぶせ

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
ACP 普及啓発ワーキンググループ	委員	静岡県医師会シズケアサポートセンター	松 川 香 織
静岡県看護協会東部地区支部の活動	役員	静岡県看護協会	細 小 路 光 葉

社会復帰事業部

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県自立支援協議会委員地域移行部会	委員	静岡県	鈴木伸二
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	東部健康福祉センター	鈴木伸二
富士圏域自立支援協議会	委員	富士健康福祉センター	北舘美沙依
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部会長	沼津市	鈴木伸二
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津崇史
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津崇史
熱海・伊藤圏域自立支援協議会発達障害ワーキング	リーダー	熱海市・伊東市	石田由貴
伊東市障害支援区分判定等審査会	審査委員	伊東市	秋津崇史
伊豆市地域自立支援協議会	協議委員	伊豆市	青木大輔
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議・運営	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部会長	伊豆の国市	小山千菜美
伊豆の国市地域自立支援協議会就労支援部会	部会長	伊豆の国市	武井紗知
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	内藤治子
清水町障害支援区分認定審査会	審査委員	清水町	勝又美智子

〔 7 〕 受託事業

所 属	受 託 事 業 名
鷹 岡 病 院	静岡県精神障害者地域移行支援者連携事業 静岡県精神障害者地域生活支援訪問事業 富士市認知症初期集中支援推進事業 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業
沼津リハビリテーション病院	生活機能向上連携（グループホーム愛の家） 駿東田方地域リハビリテーション強化推進事業 支援センター 沼津市短期集中訪問型予防サービス
社 会 復 帰 事 業 部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業 重層的支援体制整備移行事業（長泉町）

VIII. 職員配置状況

沼津中央病院

令和8年3月31日現在

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	18		3	-4		2	14		5
看護職	100	5	16	-3			97	5	16
介護職	23	5	4		1		23	6	4
医療技術職	24		4				24		4
福祉職	8		1				8		1
事務職	16	1	1			-1	16	1	
労務職	17	1	2	2		-1	19	1	1
合 計	206	12	31	-5	1		201	13	31

大手町クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1					1	1		1
看護職	4	1	1	-1	2		3	3	1
医療技術職	1						1		
福祉職	1						1		
事務職	2			1			3		
合 計	9	1	1		2	1	9	3	2

あたみ中央クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1			-1					
看護職	2			-2					
事務職	2			-2					
合 計	5			-5					

訪問看護ステーションふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	8	1					8	1	
合 計	8	1					8	1	

鷹岡病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	8	1	2	3			11	1	2
看護職	47	4	12	-1		2	46	4	14
介護職	17	3	2	1	-2	2	18	1	4
医療技術職	16		4				16		4
福祉職	7		1	1			8		1
事務職	12	2		2	-1	1	14	1	1
労務職	11	1	2			1	11	1	3
合 計	118	11	23	6	-3	6	124	8	29

富士メンタルクリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1		2				1		2
看護職	1	1					1	1	
医療技術職	1			1			2		
事務職	2	1				1	2	1	1
合 計	5	2	2	1		1	6	2	3

沼津リハビリテーション病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	4		27	-1		1	3		28
看護職	30	4	6	2		4	32	4	10
介護職	26	4	3	1	1	3	27	5	6
医療技術職	52		5	-1	1	-1	51	1	4
福祉職	3						3		
事務職	14		1				14		1
労務職	9		3	1		2	10		5
合 計	138	8	45	2	2	9	140	10	54

訪問看護ステーションうしぶせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	4	1	1	1		-1	5	1	
医療技術職	1						1		
事務職				1			1		
合 計	5	1	1	2		-1	7	1	

看護小規模多機能型居宅介護事業所汝かぜ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	2						2		
介護職	5	2	1				5	2	1
医療技術職	2		1				2		1
福祉職	1						1		
労務職			1						1
合 計	10	2	3				10	2	3

サポートセンターなかせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	3		3	2			5		3
合 計	3		3	2			5		3

サポートセンターりりぶ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職	3		1				3		1
合 計	3		2				3		2

サポートセンターゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4	1		-1			3	1	
合 計	4	1		-1			3	1	

サポートセンターほっと

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	2		1	1			3		1
合 計	2		1	1			3		1

サポートセンターひまり

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合 計	4						4		

カーサ岡の宮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1						1	
福祉職						1			1
事務職		1			-1				
合 計		2			-1	1		1	1

はまゆう寮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職			1						1
福祉職	1		1				1		1
合 計	1		3				1		3

グループホームふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職			1						1
合 計			2						2

コーポ狩野

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職						1			1
介護職		2	1					2	1
福祉職	4			-1			3		
合 計	4	2	1	-1		1	3	2	2

就労支援事業所かのん

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職						1			1
福祉職	4		4			-1	4		3
労務職			4						4
合 計	4		8				4		8

ワークショップまごころ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1	1			-1		1	
福祉職	2		4	1			3		4
合 計	2	1	5	1		-1	3	1	4

就労支援事業所田方・ゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職						1			1
福祉職	2		3			-2	2		1
事務職			1						1
労務職			1						1
合 計	2		5			-1	2		4

本 部

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	1								
事務職	7		1			1	7		2
労務職						9			9
合 計	8		1			10	7		11

合 計

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	33	1	34	-3		4	30	1	38
看護職	198	17	38	-4	2	6	194	19	44
介護職	71	18	15	2		6	73	18	21
医療技術職	97		14		1	-1	97	1	13
福祉職	50	1	19	2		-2	52	1	17
事務職	55	5	4	2	-2	2	57	3	6
労務職	37	2	13	3		11	40	2	24
合 計	541	44	137	2	1	26	543	45	163

※管理者含む

以上